



— Shibetsu City —

地域力

天塩の流れとともに
人と大地が躍動する
すこやかなまち



士別市まちづくり総合計画

2018年度～2025年度

地区別計画

目次

■ 地区別計画とは	1
■ 地区別計画の考え方	2
■ 地区別計画（8地区）	
1 「中央南地区」地区別計画	3
2 「中央北地区」地区別計画	7
3 「中央西地区」地区別計画	11
4 「中央農村地区」地区別計画	15
5 「朝日地区」地区別計画	18
6 「上土別地区」地区別計画	21
7 「多寄地区」地区別計画	24
8 「温根別地区」地区別計画	28
■ 地区別計画ワークショップ開催状況	31



* 地区別計画とは

人口の減少により地域の衰退が懸念されるなか、それぞれの地域がこれまでと同様に地域を維持・形成するためには、改めて自らの地域を見つめ直し、住民が自ら地域の将来を考えることが重要です。地区別計画とは、各地区の現状や課題を踏まえ、将来の地域づくりの目標や方向性を示す計画です。

この地区別計画は、各地区においてワークショップを開催し、多くの市民が参画するなかで策定しました。

<まちづくり総合計画の構成と地区別計画の区域>



* 地区別計画の考え方

1 地区の区分

- ▶ 地域としてのつながりや産業構造などを勘案し、主に小学校区を単位として地区を設定し、市内を8地区に分けました。
- ▶ 地区別計画は、中央南地区、中央北地区、中央西地区、中央農村地区、朝日地区、上士別地区、多寄地区、温根別地区で策定します。

2 計画の内容

- ▶ 地区別計画は、総合計画と一体的な計画として位置づけ、市内8地区の現状や課題、歴史などを踏まえ、「将来の地域づくりの目標」や「地域づくりの取り組み」を定めます。

3 計画の今後の方向性

- ▶ 地区別のまちづくりを進めるにあたっては、地域資源の活用や地域課題に対して、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を育み、住民主体の地域力を一層推進する必要があります。
- ▶ 「将来の地域づくりの取り組み」は、地域が主体となって実施し、行政と連携のもと、推進を図ります。

4 計画の期間

- ▶ まちづくり総合計画と一体的な計画として位置づけ、その計画期間を2018年度から2025年度までの8年間とし、4年毎に検証や見直しを行います。

* 地区別計画（8地区）

* 「中央南地区」地区別計画

【対象自治会】 創成、あけぼの、中央、七星、南親会、親和、東栄、第九、東山、東丘、南町南栄、南町第二、南町南郷、南町南光、南町南進

【目標】 南地区に暮らすすべての人々が、地域でふれあい、支え合いながら人と人との繋がりを大切にしたい安心でより住みよい地域づくりをめざします

（1）中央南地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

安政4年 松浦武四郎が天塩川流域を踏査
明治32年 最北で最後の屯田兵が入植
大正8年 士別軌道株式会社設立
昭和10年 国鉄・士別駅完成
昭和23年 北海道立士別高等学校設置、士別郵便局現在地に移転
昭和28年 士別南小学校開校
昭和29年 士別町、上士別村、多寄村、温根別村が合併し、市制を施行
昭和36年 士別南中学校開校
昭和41年 JR北海道・士別駅改築
昭和48年 士別同友会カントリークラブ（ゴルフ場）に改称
昭和55年 公区制度を廃止し、自治会制に移行
昭和62年 市立士別総合病院 移転改築落成
平成3年 士別勤労者センター改築落成
平成6年 南町に石黒ホーム（現ホームック）開店
南郷市民プールオープン
平成7年 ボヌール士別開設
平成15年 高速道路が開通（日本最北のIC）
平成16年 士別市生涯学習情報センターいぶき開館（図書館併設）
平成17年 士別市と朝日町が合併し、新・士別市が誕生
平成24年 あいの実保育園開園
平成25年 あけぼの子どもセンター開館

<主な施設など>

士別南小学校・士別南中学校・あけぼの子どもセンター・あいの実保育園・勤労者センター・南郷プール・保育所・幼稚園・南町神社・大型商業施設・商店街・飲食店街・公園・温泉施設・グリーンベルト・ゴルフ場・高速IC・老人ホーム・グループホーム・病院・歯科医院・金融機関・景観のよいまち並み・生涯学習情報センターいぶき

<産業>

農業・商業・建設業・製造業・サービス業

<文化・郷土芸能>

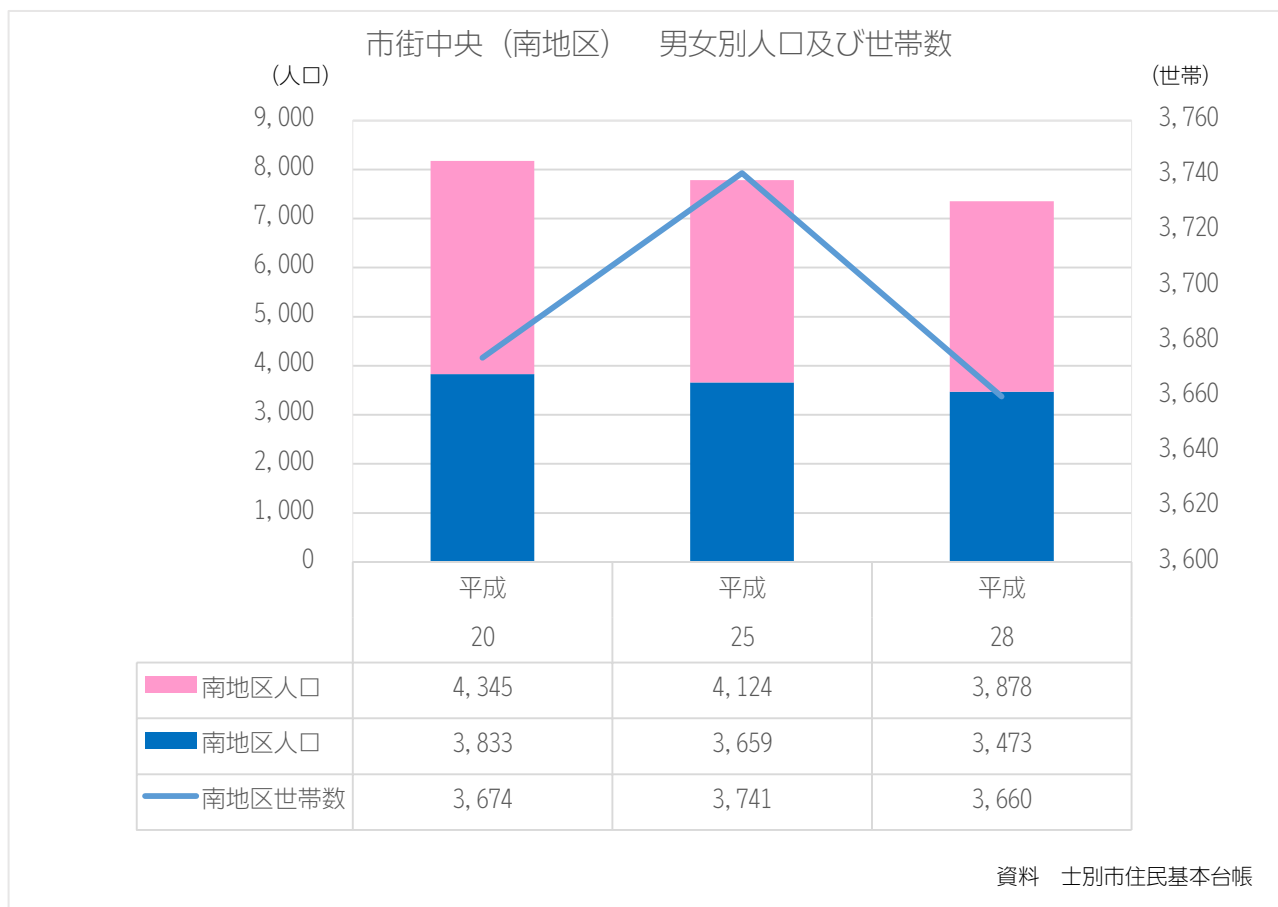
天塩川源流まつり（旧天塩川まつり）・土別まつり

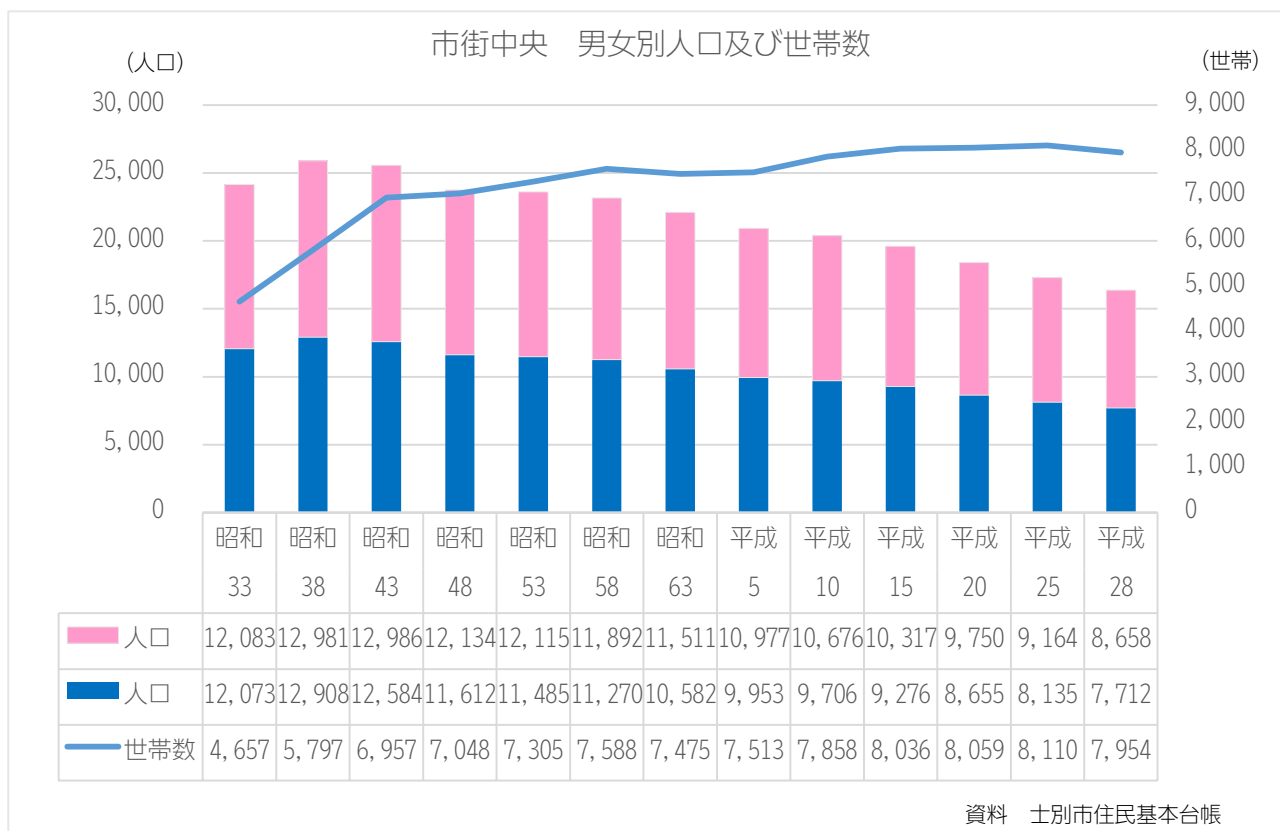
<交通>

路線バス・都市間バス・JR宗谷本線

(2) 地区の基礎データ

市内南地区 人口及び世帯数の推移





(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

開業医を含めて病院が集中・高齢者施設・公園・商業施設が多い・幼稚園・保育園・学校・南町神社・南町神社の行事・高速IC・自治会館・図書館・ゴルフ場・温泉・南郷プール・畑が多い・湧水・見晴らしがいい・広い土地・空気がきれい・まちがきれい・住みやすい・道路の植樹・柵のラベンダー・小規模で高齢者が多い自治会のため、まとまりが良い・ラジオ体操の取り組み・地域の子どもたち・クリーン運動・花いっぱい運動 など

<現状と課題>

古い団地・空き地・空き家が多い・保育園の運営・まちなかの空洞化・一部、水害になりやすい・坂が多くて危険・人口減少・少子高齢化・高齢者の独居増・若者の地元離れ・自治会活動の衰退・若い人の自治会加入・担い手の減少・高齢者等の交通不便・まちなかに高齢者のための休憩所がない・通学路が暗くて危険・避難場所の確保・自主防災組織機能の確立・高齢者の運転（車、自転車、バイク）・老人クラブ・婦人部・子ども会の消滅・ごみのポイ捨て・神社の維持・コミュニケーション機会の減少による人間関係の希薄・街路灯が少ない など

(4) 地域づくりの取り組み

① 「住みやすい環境を生かし、世代間交流や支え合いの『子育て・健康長寿』に取り組めます」

中央南地区には、幼稚園や保育園、学校、病院、歯科医院、食料品店などの施設が立地しているほか、公園や高齢者施設も多く、安心して長く住み続けられる恵まれた環境にあります。

少子高齢化が進むなか、将来を担う子どもたちの育成と信頼関係を築くため、挨拶運動をはじめとした子どもたちとの接点を大切にしていきます。また、高齢な方がいきいきと暮らしていけるよう「ふまねっと運動」や「サロン活動」などの健康増進事業の拡大をめざします。

- ・子ども達への挨拶運動
- ・「子ども会活動」などへの参加呼びかけ
- ・「ふまねっと運動」「サロン活動」の拡大による健康増進
- ・ラジオ体操参加呼びかけ

② 「地域での支え合いを大切に、安心できる住みやすい生活環境をめざします」

自治会の役員の担い手不足や運営自体が難しいことなどが課題となっているなか、行事の合同開催を行うなど、自治会同士の連携による地域づくりを進めます。

また、高齢な方が元気で安心して住み続けられるよう、「福祉パトロール」による見守りを継続するほか、災害時の避難対応などの体制づくりによる安全・安心な地域づくりをめざします。

- ・自治会行事などの合同開催
- ・自治会未加入者への地域の行事などの周知
- ・福祉パトロールなど見守りの継続
- ・ごみのポイ捨て禁止の啓蒙活動
- ・災害時の避難体制の強化

③ 「恵まれた地域資源を生かし、地域の魅力発信に取り組めます」

南地区の自然豊かな環境を生かし、ウォーキングコースや地域の名所を紹介するマップを作成することで、世代間に関係なく地域を見つめ直す機会に繋がり、地域のPRや交流の場としても広がります。

また、神社や公園などの維持を地域住民の協力により継続していくことで、人との支え合いを地域資源とする地域づくりを進めます。

- ・ウォーキングコースマップ作成

* 「中央北地区」 地区別計画

【対象自治会】 宮下、兵村、北光、屯田、第一町内、親栄、第三、第四、第5町内、九十九、桜丘

【目標】 屯田兵入植の地！ 歴史あるこの地区で子どもから高齢者までつながりを大切にし、魅力ある地域づくりをめざします

(1) 中央北地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

安政4年 松浦武四郎が天塩川流域を踏査
明治32年 最北で最後の屯田兵が入植
士別神社の創祀
士別尋常小学校開校
明治37年 寺田医院の創始で、天塩医院が開設
昭和18年 士別忠霊塔建設
昭和22年 士別中学校開校
昭和29年 士別町、上士別村、多寄村、温根別村が合併し、市制を施行
昭和42年 公設地方卸売市場が開設（平成2年に現在地へ移転）
昭和44年 士別デパートオープン
昭和46年 つくも水郷公園の造成に着工
昭和49年 士別市総合体育館完成
宮下通り舗装工事着工
昭和51年 S L D51 つくも水郷公園に保存
昭和55年 公区制度を廃止し、自治会制に移行
士別プリンスホテルオープン
昭和59年 商工会館完成
昭和62年 中野外科医院閉院
市立士別総合病院 新築落成
平成10年 Aコープ士別店閉店
平成14年 生活協同組合市民生協士別店閉店
平成15年 あすなろ交流館ぷらっとオープン
平成17年 士別市と朝日町が合併し、新・士別市が誕生
士別中学校新校舎完成
平成19年 北海道士別翔雲高等学校開校（校舎：旧北海道士別商業高等学校）
平成28年 いきいき健康センターオープン

<主な施設など>

総合体育館・土別市立病院・市役所・市民文化センター・消防署・つくも水郷公園・土別小学校・土別中学校・翔雲高等学校・北星保育園・ほくと児童館（福社会館）・商工会館・あすなろ交流館ぷらっと・商店街・飲食店・開拓記念碑・土別神社・つくも山・いきいき健康センター・宮下通りの桜並木・つくも青少年の家・グリーンベルト・天塩川・テニスコート・防災ステーション・屯田兵の入植跡地・サッカー場

<産業>

建設業・製造業・サービス業など

<文化・郷土芸能>

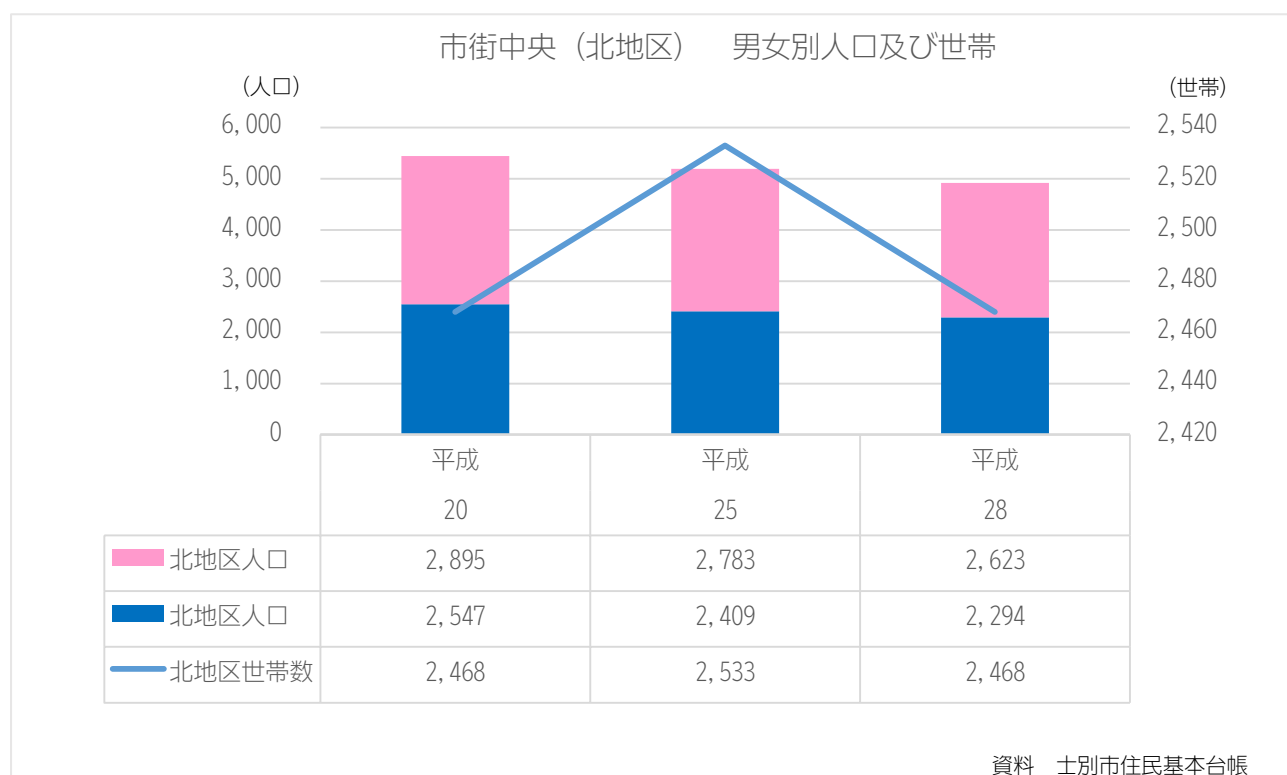
屯田兵入植の地・土別まつりなど

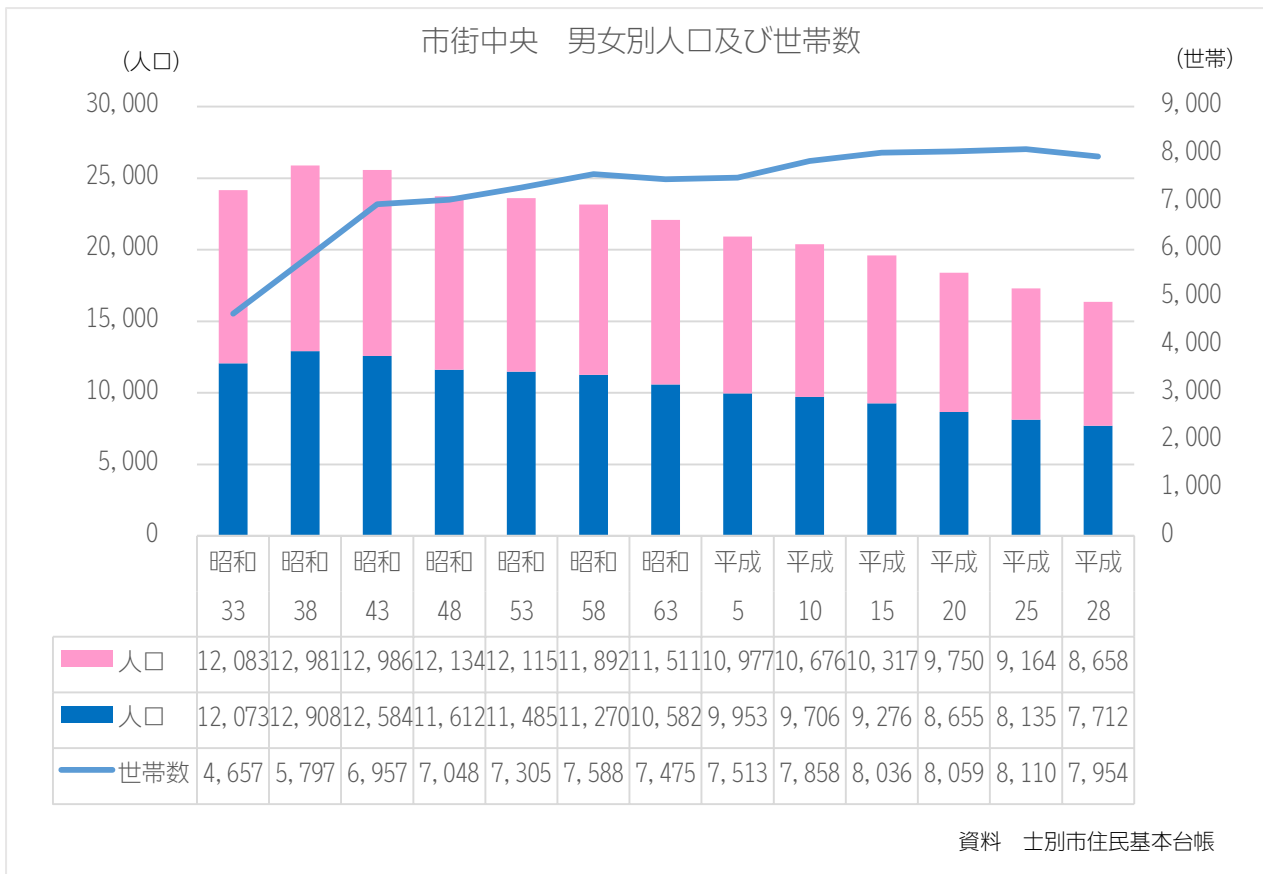
<交通>

路線バス・都市間バス・JR宗谷本線

(2) 地区の基礎データ

市内北地区 人口及び世帯数の推移





(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

保育園・幼稚園・士別小学校・士別中学校・翔雲高等学校・翔雲高等学校での商品開発・住宅地域・つくも水郷公園・河川敷テニスコート・河川敷サッカー場・農の道・天塩川・つくも山・公園など自然が豊か・士別神社・士別まつり・天塩川祭り・天塩川沿いのまち並み・屯田兵の入植跡地（歴史）・忠霊塔・人が温かい・大きなタモの木・子どもたちが集まる5条通りの環境・自動車学校・通学風景・士別市立病院・総合体育館・いきいき健康センター・福祉施設の充実・つくも青少年の家・つくも園・招魂祭・開拓碑（地）・宮下通り、神社下の桜並木・グリーンベルト・飲食店街・ふれあい交流館「とも」・花いっぱい運動・流雪溝・子どもからお年寄りまで居住している環境や子どもの歓声 など

<現状と課題>

人のつながりの強化・自治会加入者の減少・自治会役員の担い手不足・自治会役員の負担増・地域のつながりが希薄・地域の見守り活動の問題・老人クラブ加入者の減少・買い物の利便性が悪い・自治会活動の衰退・士別神社やつくも山の桜など樹木の管理・人口、子どもの減少・自治会規模が大きく、まとまらない・高齢者の増加による自治会脱退・見守り対象者の増加・自治会未加入者の増加・高齢者住宅の除雪問題・住民の高齢化・退職年齢の延伸・自治会役員の兼務増加・現状に合った役員体制の見直し・空き家・空き店舗の増加による危険性の高まり・景観問題・災害時の独居高齢者対策・店舗の減少・購入品の制約・マンションの増加による地域のコミュニケーションの低下・地域の医院などが少ない・商業地区の衰退・集いの場が少ない など

(4) 地域づくりの取り組み

① 「子どもとの挨拶運動を進めるとともに、自治会同士が連携した子ども向けイベントを継続(拡大)します！」

中央北地区には、幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校と幼児期から大人になるまでの教育・保育施設が立地し、他の地区からも多くの子どもたちが通学してきます。中央北地区では、子どもたちとの挨拶運動を進めるとともに、子どもたちを交通事故や犯罪などから守るため、目配り・気配りを行いながら、安全・安心な地域をめざします。

また、現在、いくつかの自治会が連携して実施している子ども向けイベントを継続するとともに、他の自治会への拡大を進め、子どもたちが憩い集える地域をめざします。

② 「地域の見守り活動を継続するとともに、健康で元気な地域をめざします！」

現在、一人暮らしの高齢者宅を中心に行っている見守り活動を継続し、高齢者が安心して暮らすことのできる地域をめざします。

また、高齢者が語り合えるサロンや敬老会などを開催するなかで、高齢者の外出する機会をつくり、高齢者にとって運動機能の向上を図るなど、健康で元気な地域をめざします。

③ 「自治会同士で地区の将来を語り合う場を設けます！」

現在、役員の担い手不足や若い世帯を中心に自治会の未加入者が増えるなど、自治会を運営するうえでの課題が増えています。一方で少子高齢化が進むなかにおいて、高齢者の見守りなど自治会が果たす役割は大きくなっていることから、中央北地区を構成する自治会において、将来の自治会のあるべき姿を研究する語り合う場をつくりまします。

④ 「自主防災組織の設立に向け、情報連絡体制を強化し、安全・安心な生活環境をめざします！」

近年、大雨による家屋などへの浸水被害が増えており、地域で災害に備えた取り組みが重要となっています。まずは、行政との連携のもと避難場所の確認をするとともに、地域が地域を守るため、正確な情報伝達ができる体制づくりを進め、子どもから高齢者まで安全・安心に暮らせる地域づくりをめざします。

⑤ 「公園を生かしたイベントを開催します！」

中央北地区の多くの自治会に公園があることから、この地域資源である公園を活用した地域イベントを開催し、地域の活力を向上させる取り組みを進めます。

＊「中央西地区」地区別計画

【対象自治会】 につてん、観月、駅南

【目標】 地域のつながりを大切にし、思いやりと助け合いで豊かな心を育むとともに、子どもも大人も元気で生きがいをもって暮らせる、安全・安心な地域をめざします

(1) 中央西地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

安政4年 松浦武四郎が天塩川流域を踏査
明治32年 最北で最後の屯田兵が入植
昭和11年 明治製糖株式会社士別工場（現在の日本甜菜製糖）操業開始
昭和29年 士別町、上士別村、多寄村、温根別村が合併し、市制を施行
昭和32年 森永乳業士別工場操業開始
昭和35年 昭和木材株式会社士別工場操業開始
昭和40年 国道239号士別～苫前間開通
昭和47年 中央通観月跨線橋完成
昭和49年 公共下水道終末処理場完成
昭和53年 士別西小学校開校。名越大橋完成
昭和55年 公区制度を廃止し、自治会制に移行
昭和63年 西児童センター開館
平成2年 士別市地方卸売市場新設移転
平成7年 不動大橋完成
平成17年 士別市と朝日町が合併し、新・士別市が誕生
平成21年 士別市農畜産物加工体験交流工房「の～む」開館
平成23年 第1回士別ビートまつりを開催

<主な施設など>

日本甜菜製糖株式会社士別製糖所・屯田兵上陸の碑・西小学校・下水処理場・農畜産物加工体験交流工房「の～む」・ふどうパークゴルフ場・西児童センター・士別地方卸売市場・駅南工業団地・上川総合振興局旭川建設管理部士別出張所

<産業>

製糖業・商業・建設業・サービス業ほか

<文化・郷土芸能>

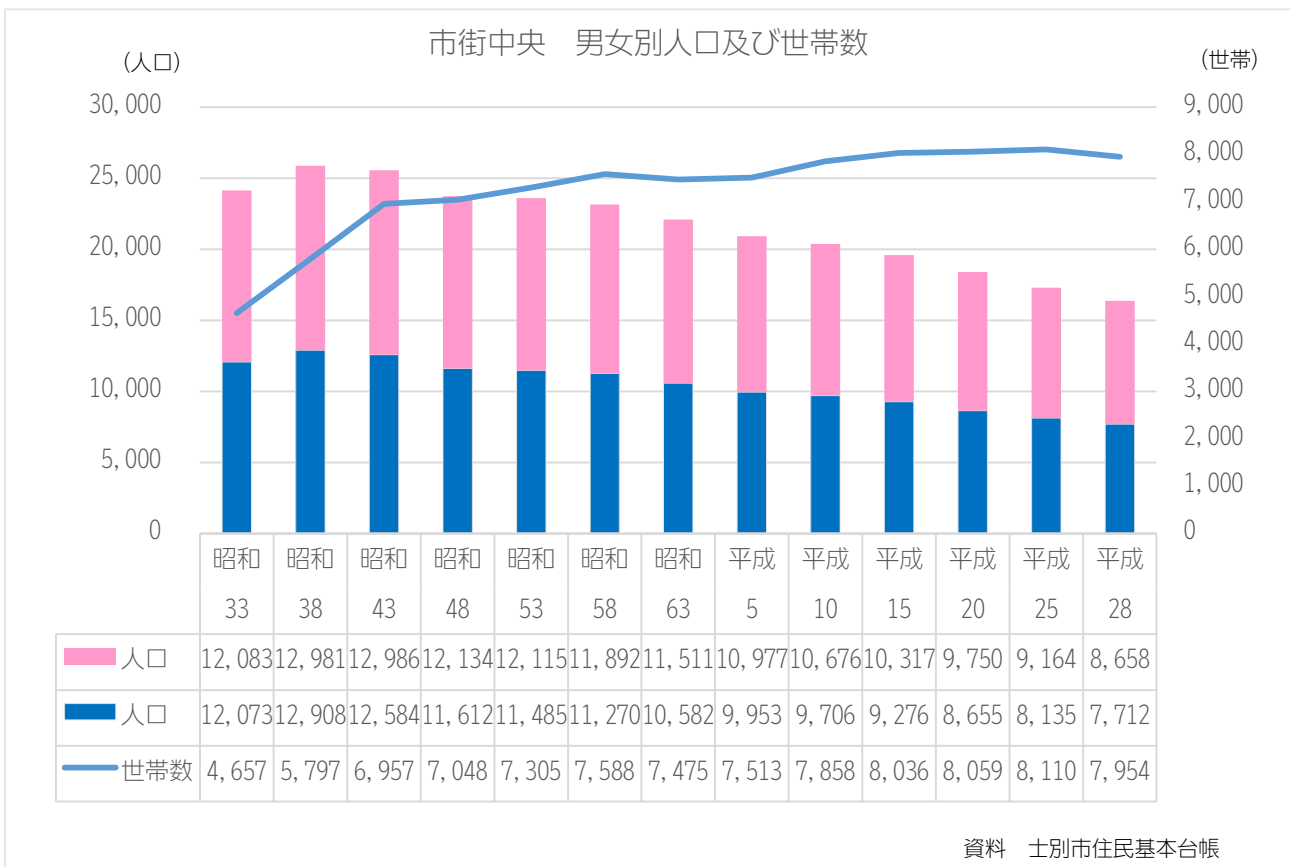
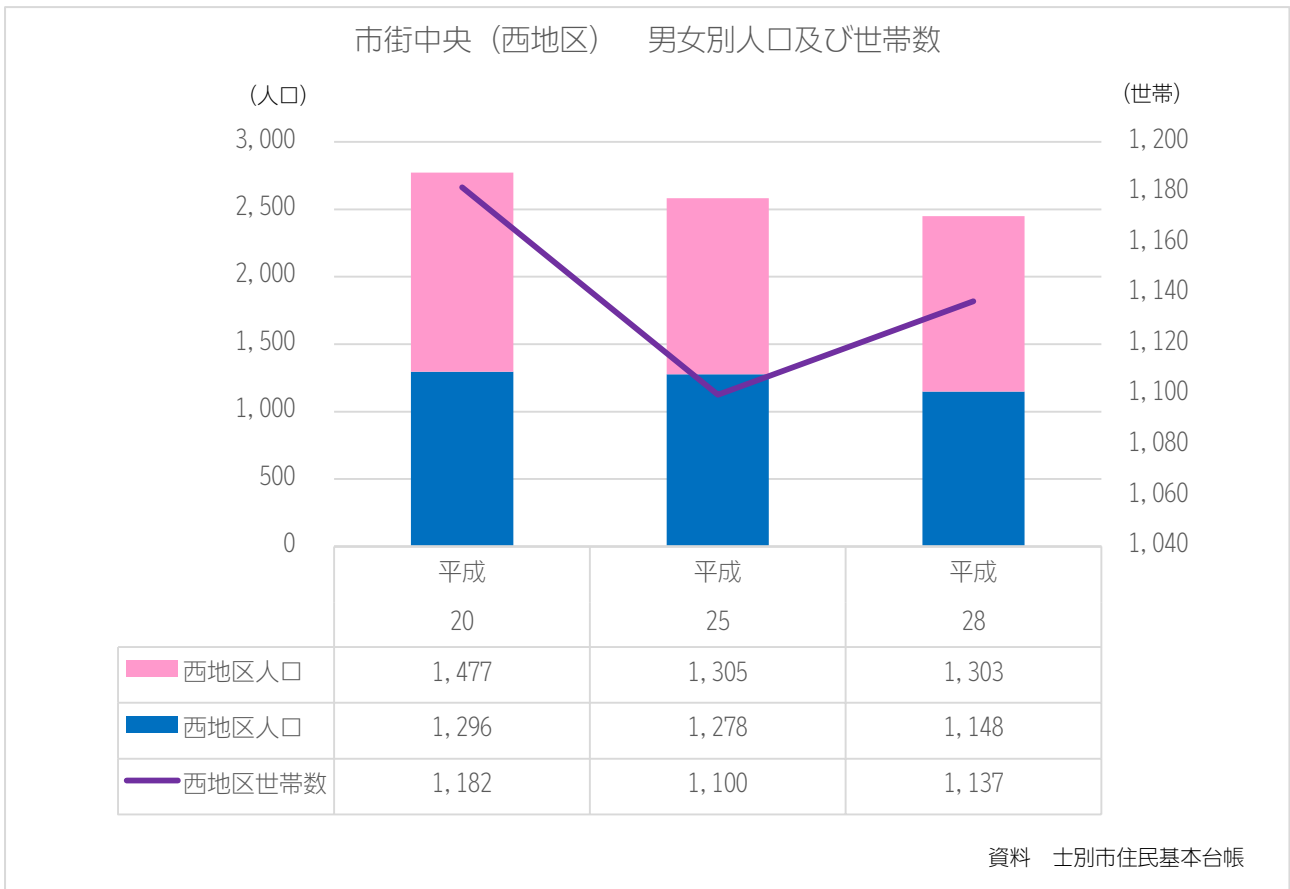
士別まつり・天塩川源流まつり（旧天塩川まつり）・盆踊り

<交通>

路線バス・都市間バス・JR宗谷本線

(2) 地区の基礎データ

市内西地区 人口及び世帯数の推移



(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

日本甜菜製糖士別製糖所・農畜産物加工体験交流工房「の〜む」・河川（剣淵川、チューブス川）・剣淵川のさくら堤防・屯田兵上陸の碑・ふどうパークゴルフ場・地域で活用している鉄道跡地（日甜専用線用地）・ビートまつり・ビートオリゴ糖・西1条1丁目踏切のお地蔵さん・西小学校・西小学校前のコスモスロード・下水処理場・西児童センター・宅配会社・体育室も備える自治会館・運動習慣と親睦が図れる自治会活動・体力づくりに適した地区・土別音頭・歴史のある盆踊り・古い建物 など

<現状と課題>

少子高齢化・自治会加入率の低下・自治会活動の停滞や事業参加者数の減少・自治会役員の担い手不足・子ども会活動の停滞・空き家、空き地、空き店舗問題・空き家、空き地周辺の環境悪化・チューブス川の環境整備・剣淵川に植樹した桜の管理・交通安全対策（冬期間の狭隘道路、西広通りの国道交差点、細い裏通り）・名越道路踏切の安全対策・合宿者の安全対策・市中心部へのアクセス・夏期間のバス運行・店舗数の減少・西小学校統廃合後の利活用・西児童センターの利活用・剣淵川河川敷地のソフトボール場の利活用・旧競馬場跡地の利活用・地域の出来事を記録として残すこと など

(4) 地域づくりの取り組み

① 「地域で語らい、コミュニケーションを図りながら、健康づくりに取り組みます」

高齢化が進むなかで、運動習慣の定着や認知症予防をめざして、地域住民のコミュニケーションを図りながら、「ふまねっと運動」や「ダンス」などに取り組みます。

また、「ふどうパークゴルフ場」や「さくら堤防」など、運動環境に恵まれた立地状況を有効に活用しながら、健康づくり活動に取り組みます。

② 「豊かな心を育むとともに、地域の伝統を守り、引き継ぐ活動をめざします」

西小学校の統廃合や西児童センターのあり方など、子育てを取り巻く環境の変化が見受けられますが、緑あふれる自然環境のもとで、豊かな心を育むよう、地域での「見守り活動」や「あいさつ運動」など、これまでも行ってきた取り組みの継続をめざします。

また、これまで自治会が取り組んできた歴史ある盆踊りをはじめ、様々な子ども会活動を自治会の連携のもとで開催し、「多くの子どもたちが集う取り組み」や「集まる場」を設け、子どもたちの健全な育成を地域でも進めます。

③ 「地域の力を集め、安全・安心な生活環境の実現をめざします」

冬場の交通安全対策や西小学校統廃合後の交通安全啓発など、世代を問わず、安全・安心な生活環境に向けた取り組みが必要になっています。これまで継続的に取り組んでいる「高齢者の交通安全講習会」や「救急救命講習会」、「交通安全街頭啓発」、「道路パトロール」などを積極的に行い、安全・安心なまちづくりをめざします。

④ 「地域資源を学習し、未来に引き継ぐ取り組みをめざします」

市内西地区は、長い歴史を誇る製糖工場が立地するほか、本市開拓の礎を築いた屯田兵上陸の碑が建てられるなど、多くの宝物が存在する一方で、これらについての沿革やいわれなどを伝承する取り組みが、十分に行われていない現状です。

これらの宝物について、地域で「学び」・「語る」取り組みに加え、次代を担う子どもたちに伝承することをめざします。

* 「中央農村地区」地区別計画

【対象自治会】 北町、西士別、学田、南士別、武徳、下士別、川西、中士別

【目標】 豊かな自然と共生した、助け合いの心あふれる元気な農村地域をめざします

(1) 中央農村地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

<下士別地区>

明治34年 神保惣吉氏入植
大正8年 土功組合設立
昭和45年 基盤整備に着手
平成4年 百姓まつりを開催

<武徳地区>

明治37年 軍馬予定地として開拓
昭和4年 北野商店が開店
昭和48年 基盤整備事業に着手
昭和59年 繁穫祭を開催

<川西地区>

明治35年 中の島地区に富山県人会が入植
大正8年 菊田佐市氏（校長・農業指導者）が
羊毛の織物の生産組合を設立

<中士別地区>

明治34年 中士別1線から4線に福島団体100
戸が入植
大正2年 上士別が中士別から分村
昭和45年 基盤整備事業に着手

<西士別・学田地区>

明治38年 伊藤常吉氏が入植し開拓が開始
岩手・岐阜・宮崎県から入植
昭和34年 屠畜場が建設
昭和35年 学田スキー場がオープン
昭和41年 めん羊牧場開設
昭和53年 学田衛生センターし尿処理場が開
設
昭和58年 一般廃棄物処理場が受け入れ開始
平成4年 羊飼いの家がオープン
平成6年 世界のめん羊館がオープン

<南士別地区>

明治35年 剣淵北兵村屯田第4中隊が開拓の
鋤を入れる
大正5年 水田の耕作が始まる
昭和37年 球場や陸上競技場の建設が開始

<北町地区>

明治31年 河南友吉氏が入植
昭和11年 明治製糖株式会社士別工場完成
昭和29年 北公有地から北町と改称
平成12年 下北大橋が完成

<主な施設など>

中士別駐在所・中士別神社・めぐみ野士別・士別市バイオマス資源堆肥化施設・天塩川清流苑・
下士別神社・ゲートボール場・土風山・旧小学校・給食センター・多世代スポーツ交流館・ふ
どう野球場・陸上競技場・士別霊園・テニスコート・士別inn翠月・羊と雲の丘・世界のめん羊
館・グリーンスポーツ・市立博物館

<産業>

農業

(2) 地区の基礎データ

<人口と世帯数>

	昭和35年	昭和50年	平成2年	平成17年	平成27年
中士別地区	472戸 2,717人	338戸 1,391人	251戸 904人	195戸 526人	158戸 383人
南士別地区	97戸 595人	64戸 315人	58戸 242人	53戸 180人	46戸 127人
川西地区	134戸 840人	74戸 335人	50戸 252人	40戸 135人	39戸 103人
下士別地区	242戸 1,482人	187戸 886人	143戸 581人	141戸 452人	104戸 266人
武徳地区	244戸 1,478人	177戸 842人	138戸 593人	111戸 351人	103戸 313人
西士別地区	111戸	95戸	74戸	67戸	51戸
学田地区	648人	385人	269人	198人	142人
北町地区	72戸 423人	65戸 259人	112戸 399人	114戸 320人	105戸 268人

<農業者戸数（朝日、上士別、多寄、温根別地区以外の農家戸数）>

	昭和35年	昭和50年	平成2年	平成17年	平成27年
中央農村 地区	1,518戸 —	981戸 2,640人	711戸 1,197人	376戸 901人	214戸 561人

※農林業センサス及び北海道農業基本調査（専業・兼業農家数）

(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

羊と雲の丘・地域のお祭り・満点の星の丘・牛・山林・景色・景観・下北大橋・グリーンスポーツ・農業 など

<現状と課題>

人口減少・少子高齢化・農業後継者不足・花嫁対策・新規就農希望者の受け入れ・高齢者の買い物・役員の担い手・各催しでの人手不足・自主防災・避難所対策・農家世帯と一般世帯のつながり・地域神社の維持・核となる施設がない・遊休農地 など

(4) 地域づくりの取り組み

① 「子どもとの挨拶運動を進めるとともに、「地域110番」に取り組みます！」

地域の子どもたちが、将来にわたって中央農村地区の未来を支えることができるよう、ふるさとへの愛郷心をさらに醸成するため、地域全体で子どもを見守る体制づくりが必要です。そのためには、日頃から地域全体で「挨拶運動」をさらに進めるとともに、不審者などから子どもや高齢者などを守る「地域110番」の取り組みを進めます。

② 「老いも若きも、心も体も、健康で元気な地域をめざします！」

生涯にわたり健康で過ごすために、定期的な健康診断を受けるとともに、地域でコミュニケーションをとりながら、「心」と「体」の健康の維持・増進に努めます。

③ 「自主防災組織を設立・強化し、安全・安心な生活環境をめざします！」

近年、大雨による家屋などへの浸水被害が多くなってきており、地域で災害に備えた取り組みが重要となっています。まずは、行政との連携のもと避難所の場所、設備を点検するとともに、地域が地域を守るため、正確な情報伝達などができる自主防災組織の設立及び強化を進め、子どもから高齢者まで安全・安心に暮らせる地域づくりを進めます。

④ 「将来にわたって美しい農村景観を守る取り組みを進めます！」

中央農村地区は、本市の観光やスポーツ合宿、文化、環境などの拠点施設が数多く立地され、さらに主要道路も数多くあり、来訪される方など交通量は非常に多い地域です。このようななかで、一部のこころない通行者（来訪者）がゴミを捨てている状況が見受けられることから、本市に観光などで訪れる方が気持ち良く通行できるよう清掃活動などの取り組みを進め、自らの美しい農村景観を後世に引き継ぐことをめざします。

⑤ 「肥沃な大地からもたらされる大地の恵みに感謝するイベントを継続開催します！」

中央農村地区は、収穫できないものがないと言われるほどバランスのとれた農業が営まれています。現在、各地域で開催している催しを継続し後世に引き継ぎ、大地の恵みに感謝する機会を設け、本市の基幹産業である農業を守り育てるため、地域の振興につながる取り組みを進めます。

* 「朝日地区」 地区別計画

【対象自治会】 糸魚、朝日第3区、朝日中央、あさひ、みずほ、南朝日、登和里

【目標】 お互いの顔の見える地域だからこそ、細やかなコミュニティを形成する地域づくりをめざすとともに、少子高齢化に伴う、次世代の担い手の育成を進めます
また、合宿、観光などによる交流人口の増加をめざすため、地域で心のこもった“おもてなし”（ホスピタリティ）に努めます

(1) 朝日地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

- 明治38年 朝日町の開基
- 明治41年 糸魚小学校が開校し、朝日町林産業の始まりとなるマッチ軸工場が創業
- 明治42年 水稻が試作され、朝日町の水稲が始まる
- 大正8年 天塩川が氾濫し、開村以来の大水害となる
- 昭和22年 朝日中学校が開設
- 昭和24年 上土別村から分村独立
- 昭和25年 旧役場庁舎が開庁
- 昭和30年 朝日町の保育所の始まりとなる、ふたば保育所が開設
- 昭和31年 土別市との境界を変更
- 昭和33年 忠魂碑が建立
- 昭和36年 朝日商工会が発足
- 昭和37年 町制が施行され、糸魚小学校の校舎が落成
- 昭和45年 昭和38年から着工していた、岩尾内ダムが完成
- 昭和54年 三望台にサマージャンプ台が完成
- 昭和55年 朝日スキー場（スキーリフト）完成
- 昭和57年 農業者トレーニングセンターが完成
- 昭和60年 商工会館が完成
- 平成3年 朝日美土里ハイツが開所
- 平成6年 あさひサンライズホールがオープン
- 平成7年 役場庁舎の増改築工事が完了
- 平成9年 壬子小学校、三栄小学校、茂志利小学校、登和里小学校の4校が閉校
- 平成12年 農産物直売・交流施設、岩尾内湖白樺キャンプ場管理棟が完成
- 平成12年 朝日浄化センター供用開始
- 平成14年 一般廃棄物最終処分場供用が開始
- 平成17年 土別市と合併
- 平成19年 糸魚小学校移転新築
- 平成23年 朝日地域交流施設「和が舎」オープン
- 平成29年 一般廃棄物最終処分場共用終了
- 平成29年 有害鳥獣一時保管施設供用開始

<主な施設など>

あさひサンライズホール・まなべーる（郷土資料室）・瑞穂獅子舞伝習館・三望台シャンツェ・あさひスキー場・農業者トレーニングセンター・武道館・ローラースキーコース・パークゴルフ場・山村広場・岩尾内ダム・岩尾内白樺キャンプ場・朝日地域交流施設「和が舎」・朝日山村研修施設・朝日神社・朝日霊園・天塩岳・朝日浄化センター・朝日農産加工実習施設

<産業>

農業・林業

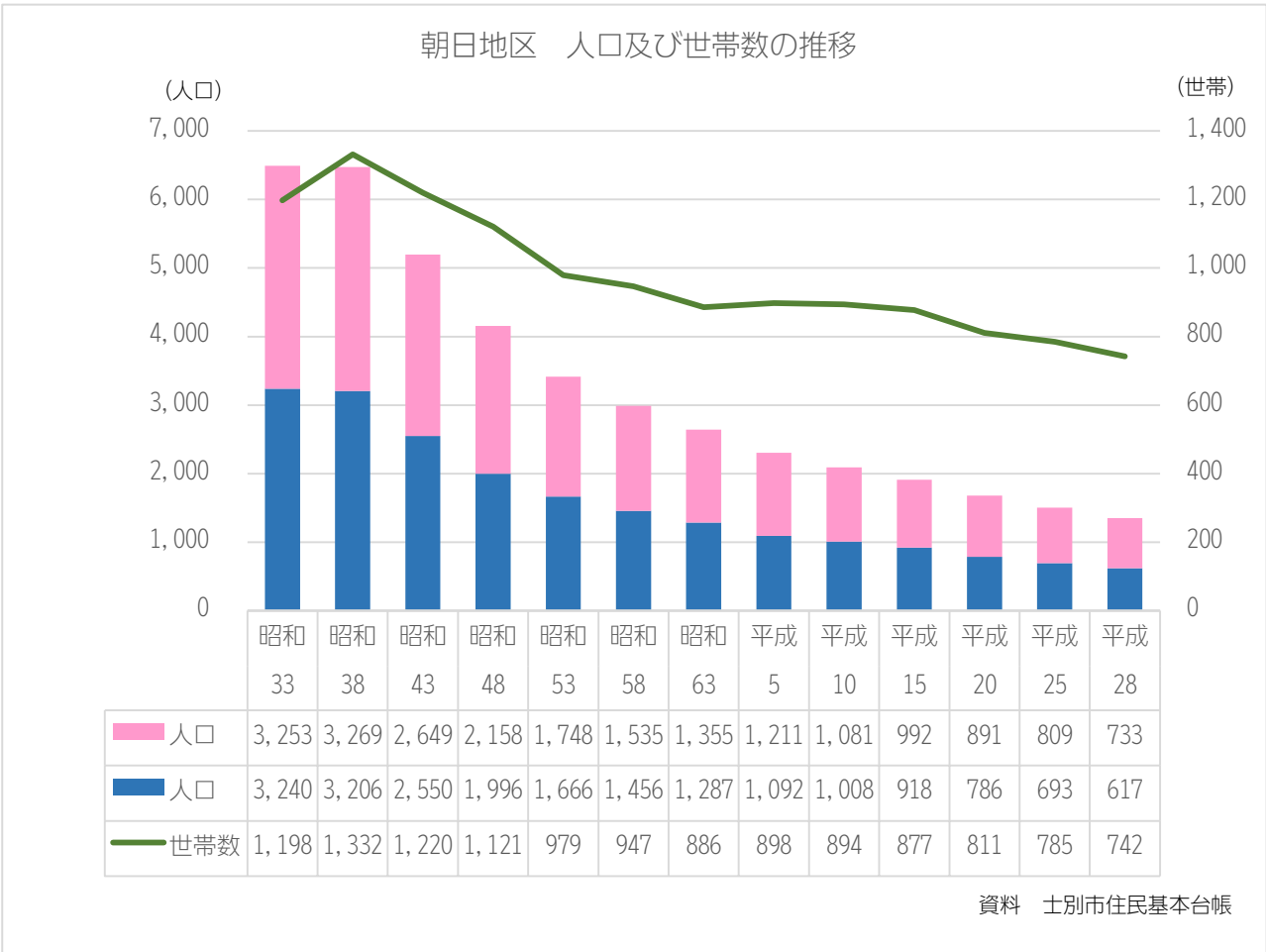
<文化・郷土芸能>

瑞穂獅子舞・岩尾内太鼓・御神輿渡御・朝日神社祭・あさひじゃんじゃんジュビリー

<交通>

路線バス（朝日線土別軌道）

(2) 地区の基礎データ



(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

道立自然公園天塩岳・岩尾内湖・天塩川・瑞穂獅子舞・サンライズホール・地域交流施設・三望台シャンツェ・あさひスキー場・農産物加工施設・まなべる（郷土資料室）・農業者トレーニングセンター・朝日パークゴルフ場・朝日プール・あさひクリニック・歯科診療所・岩尾内湖水まつり・じゃんじゃんジュビリー・ベタ雪祭り・天塩岳山開き・復活！朝日町商店街・町民体育まつり・スキーイベント・カレー味噌おでん・笹寿司・朝日音頭・スキー競技・吹奏楽・演劇・スポーツ、文化合宿の受け入れ・プロのアーティストによるレジデンス（鬼太鼓座）

<現状と課題>

人口減少・少子高齢化・自主防災組織強化・自治会組織再編・農業基盤整備・農、商、工後継者不足・各種役員の担い手不足・イベント開催における運営側の高齢化・地域コミュニティの変化・買い物が不便・交通が不便

(4) 地域づくりの取り組み

① 「現有施設の有効活用」

朝日地域は、サンライズホールや各種スポーツ施設などの公共施設を多く有しているため、施設の利用促進と有効活用をするなかから、さらなる地域コミュニティを醸成します。

② 「文化・スポーツ・合宿・イベントの取り組み」

- ・士別市無形文化財「瑞穂獅子舞」の全市的な継承と地域での支援を進めます。
- ・文化、スポーツ団体は他地域で活動している同種団体との交流などの取り組みに努め、団体の魅力向上と活性化に努めます。
- ・道内外からの文化・スポーツ合宿及びアーティストに対し滞在中の活動の支援（インレジデンス）を地域で推進します。
- ・各種イベント開催に、地域住民がより一層携わるなかから地域コミュニティの充実をめざします。

③ 「地域資源・自然を生かした取り組み」

- ・天塩岳、天塩川、岩尾内湖を素材としたPRや地域での交流の場として活用します。
- ・地域に伝わる食生活、伝統を守り伝えます。

④ 「人と人とのつながりを大切にした取り組み」

- ・安心な子育てと教育に対する取り組みとして、地域と学校などとの関わりを深めます。
- ・自治会を中心とした地域コミュニティのために将来的な自治会再編の検討を進めます。
- ・独居高齢者、高齢者世帯に対する日常的なコミュニケーションと見守りを進めます。

＊「上士別地区」地区別計画

【対象自治会】 川北、上士別中央、黄金、上士別第7、上士別第8、共栄、上士別第10、上士別第11、川南、成美、大和

【目標】 未来豊かに開けゆく「米づくりの聖地をめざす・上士別」

(1) 上士別地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

- 大正2年 士別村から独立
- 昭和23年 上士別村農業協同組合が設立
- 昭和24年 朝日村を分離
- 昭和25年 上士別酪農組合が設立
- 昭和28年 西内大部貯水池決壊 ※主要な交通が鉄道からバスとなる
- 昭和29年 士別町、多寄村、温根別村と合併し、士別市上士別町となる
- 昭和35年 士別石灰工業株式会社が操業開始
- 昭和39年 北海道農材工業株式会社士別炭酸カルシウム肥料工場が操業
- 昭和41年 団体かんぱい事業として中島地区、52年に上士別・兼内地区が完成
- 昭和45年 団体ほ場整備事業として士別川第1地区、翌年には士別川第2地区が着工
- 昭和58年 上士別音頭創作期成会結成
- 昭和59年 ホタル部会発足
- 昭和60年 開基85周年を記念し『郷土史上士別』を発刊
道営排水対策事業が完了、第一期土地改良事業が完了
上士別をきずこう会結成
- 昭和61年 ゲンジボタルの卵を孵化、西内大部川に放流
- 平成3年 上士別アグリビジョン21設立
- 平成12年 北海道農材工業株式会社が新鉱山開発に着手
- 平成13年 北海道農材工業株式会社新士別石灰礫業所として土壌改良剤の生産を開始
- 平成14年 上士別地区土地改良準備委員会設立
- 平成17年 上士別地区国営農地再編整備事業促進期成会設立

<主な施設など>

上士別構造改善センター・上士別出張所・上士別医院・上士別保育園・消防団分遣所・上士別小学校・上士別中学校・士別東高等学校・上士別公民館・兼内分館・成美分館・川南分館・大和分館・大和牧場・上士別遺跡・西内大部自然公園・北海道農材工業株式会社新士別石灰礫業所・JA北ひびき上士別支所・マッケンジーファームレストラン・上士別農産加工場・こいなか・黒田商店・美田商店・長谷川商店・大前商店・照後商店・ファームあるむ

<産業>

農業・工業・建設業・砕石場・林業・観光業（マッケンジーファームレストラン）

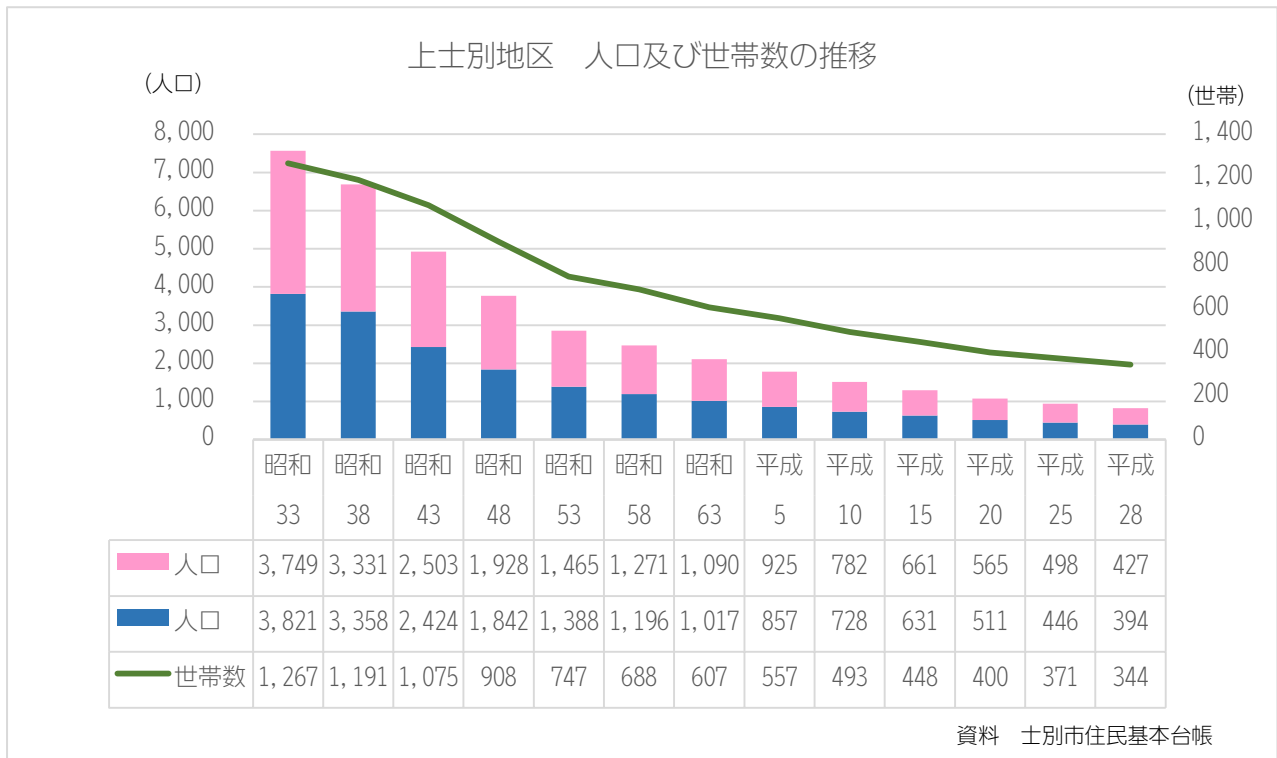
<文化・郷土芸能>

上士別神社・吉野神社（成美、兼内）・三郷神社・上士別宝来太鼓・上士別をきずこう会・ほたるの里・兼内民謡会・ひふみ会舞・スコップ三味線・文化祭・芸能発表・上士別音頭・上士別神社祭・兼内吉野神社祭・大和神社祭・川南神社祭 など

<交通>

路線バス（朝日線、川南大和線、大和線）

(2) 地区の基礎データ



(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

上士別小中学校新校舎・構造改善センター・大和牧場・石灰山とその麓の水・大区画ほ場・地元農畜産物・ホタルの里・笹の平・天塩川・山・寒暖差・ヤマベ・サンショウウオ・山菜類・サンピラー・宝来太鼓・上士別みこし会・セイコーマート・こいなか・上士別神社・成美吉野神社・兼内吉野神社・大和神社・川南神社・三郷神社・町民運動会・ビールパーティー・アイスクャンドルフェスタ・盆踊り・文化祭・地域住民・土地の良さ・農家の技術力・高齢者 など

<現状と課題>

インフラの整備（地域公共交通、道路、運動施設）・移動手段の確保及び交通弱者への安全対策・少子高齢化・人口減少・若者及び児童生徒数の減少・農家の後継者不足・商工業の衰退・勤務先の減少・ホタルの里などの観光地の維持管理及び整備・地域住民の生きがい対策や地域イベントの実施に伴う資金及び人材不足・東高校の存続・小中学校新校舎の多目的利用・魅力ある地域の形成 など

(4) 地域づくりの取り組み

① 「世代間の交流の場づくりをめざします」

人口減少や少子高齢化が進むなかで、地域で子育て環境を整えていくことは、地域の活力を高めていくことにつながります。

子どもたちが、のびのびと遊ぶことのできる場を確保していくとともに、様々な体験を通して、豊かな人間性が形成できるような居場所づくりを進めています。

さらに、地域で子どもを育てる環境の整備及び人間性豊かな子どもたちの育成を進めるため、「宝来太鼓」の後継者の育成を図りながら、世代間の交流の場づくりを進めます。

② 「健康で元気なまちをめざします」

冬期間の運動不足を解消する取り組みとして、小中学校体育館を利用して「室内ウォーキング」を実施しています。

今後は、より楽しく充実した運動とするため、家庭などで不要となった健康器具やトレーニング機器などを再利用、収集するなかで、さらなる健康増進への取り組みを推進します。

③ 「安全・安心な生活環境に向けた取り組みを行うまちをめざします」

近年、台風や豪雨災害による家屋などへの被害が懸念されており、地域での災害に備えた取り組みが必要です。お年寄りや体が不自由な方、小さい子どもなどの要援護者の避難には、地域と行政との連携、協力体制が特に必要です。

自主防災組織が中心となって、安全・安心に住み続けられる地域をめざすため、地域コミュニティの醸成にもつながることから自主防災組織の強化をめざします。

④ 「自然と共生した、魅力ある農業のまちをめざします」

上士別地区は、国から農業の先導的モデル地区として位置づけられており、小区画で不整形な水田を大区画水田へ再編する国営農地再編整備事業を実施し、水稻作付けを主体とする集落営農や法人化への取り組み、また、効率的な農作業をめざすなかで、農作業機械の無人化など先進的な取り組みを進めています。

また、地域と関係団体などが連携し、上士別マップやイベントマップの作成、スタンプラリーを実施するなかで、「大自然の魅力を生かし、環境に優しい上士別」をめざします。

* 「多寄地区」地区別計画

【対象自治会】 多寄第1、多寄第2、中多寄、多寄東、多寄中央、多寄南町

【目標】 **多くの自然と資源を活かし、**
人と人とが心を寄せ合い、
笑顔があふれる魅力的な町づくりをめざします

(1) 多寄地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

- 明治32年 天塩村戸長役場から上川支庁剣淵町戸長役場の所轄となる
- 明治35年 剣淵町戸長役場から分離し、多寄村、上名寄村、下名寄村の3村により上名寄村外2村戸長役場を上名寄村に置く
- 明治42年 2級町村制を施行し、多寄村となる
- 昭和13年 多寄村と風連村が分村し、現在の同町の前身である多寄村が誕生
- 昭和29年 士別町、温根別村、多寄村、上士別村が合併し、士別市多寄町となる
- 昭和35年 多寄商店会が設立
- 昭和36年 多寄支所から多寄出張所となる
- 昭和43年 中多寄地区開拓パイロット事業に着工
- 昭和47年 農業生産法人士別農園が設立
- 昭和49年 多寄医院が落成
- 昭和50年 日向神代神楽の保存館が完成し、保存会も結成
- 昭和52年 士別地区林業センターが日向地区に完成
- 昭和55年 日向スキー場、日向森林公園が開設
- 昭和61年 多寄駅が無人化
- 昭和62年 日向森林公園に句碑の建立
- 昭和63年 日向スキー場第2リフト供用開始
- 平成5年 農村広場が落成
- 平成7年 農村広場にパークゴルフ場を開設
- 平成8年 株式会社ブリヂストンのテストコースが完成
- 平成24年 日向温泉リニューアルオープン
多寄医院改築
- 平成25年 中多寄小学校が閉校
- 平成26年 家庭菜園付公営住宅が完成

<主な施設など>

日向スキー場・日向温泉・日向森林公園・日本パークゴルフ協会公認コース・多寄医院

<産業>

農業

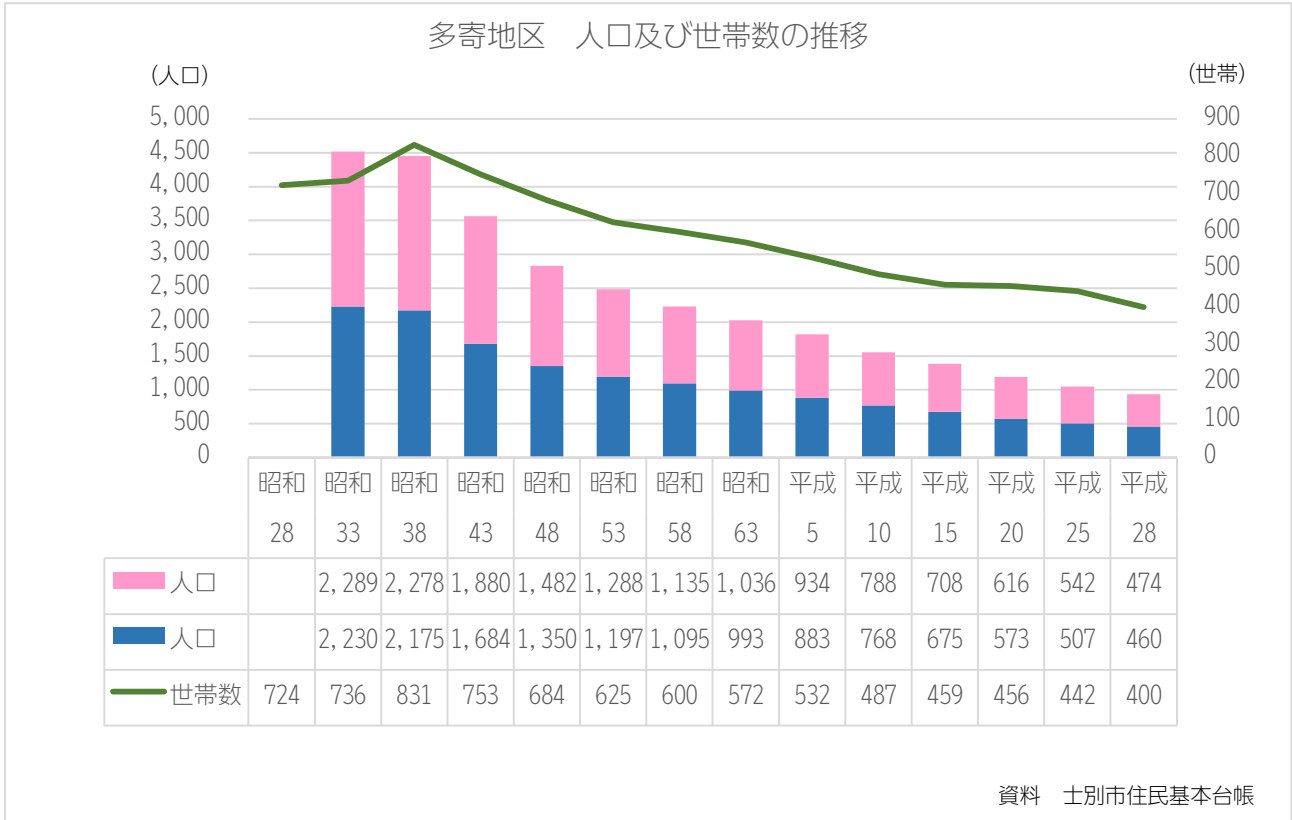
<文化・郷土芸能>

日向神代神楽・多寄神社祭・雪まつり・そば祭

<交通>

路線バス（中多寄線）・都市間バス（名寄線）・JR宗谷本線（多寄駅・瑞穂駅）

(2) 地区の基礎データ



(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

自然・星空・日向温泉・日向スキー場・日向森林公園（キャンプ場）・日向からの景色・タヨロマ川・天塩川・農村広場・日本パークゴルフ協会公認コース・日向神社・東陽神社・多寄神社祭典のお祭り広場・そば祭り・日向神代神楽・広大な農地・安全、安心な農畜産物・酪農大型パイロット・町民フェスティバル・多寄雪祭り（多語咲会主催）・盆踊り（多寄有志会主催）・JR宗谷線・診療所・サケ放流事業・消防団・夕食会・自治会・子ども会・支区PTA・老人クラブ・体育協会・防犯協会・多寄地域資源保全プロジェクト・文化団体・スポーツクラブ・おいしいソバ屋・前向き・協力・団結力・人と人とのつながり・若い人たちのネットワーク・多寄水田音頭・多寄音頭 など

<現状と課題>

人口減少・少子高齢化・農業後継者不足・花嫁対策・廃屋・農業の規模拡大と人口減少のバランス・農用地、用排水路の不管理地区の増加・新規就農希望者の受け入れ・旧中多寄小学校の利活用・各種イベントでの人手不足・自治会合併・多寄神社祭典の縮小化・防災・避難所対策・独居世帯の見まわり・買い物が不便（店がなくなる）・保育時間が短い・保育の充実・出張所や研修センターの老朽化・日向森林公園の活用（キャンプ場の充実）・若い人と高齢者のつながり・農業以外の産業がない・特産物がない・観光がない など

(4) 地域づくりの取り組み

① 「子どもたちが集まり、子育てしやすい、まちをめざします」

多寄保育園は建物が老朽化し、周辺の交通量も多く危険が伴う状況にあります。

少子化等の影響から、年々園児が少なくなってきており、保育園単独では運動会が開催できないため、現在は町民全体で行う「スポーツフェスティバル」と同時開催しています。

また、少子化により子どもたちも減っていくなか、「保育園の休みが長いこと」や「保育時間が短いため、早く園児を迎えに行かなければならないこと」など、安心して子どもを預けて働くことが難しくなっています。多寄町に保育園があるのに、他の保育園に園児を預けなければならない状況や、より良い子育て環境を求めて、多寄町を離れる家族が増えることも考えられます。

多寄町に子どもが集まり、親子でコミュニケーションがとれる環境や、安心して子育てできる体制づくりを行うため地域全体で取り組みます。

② 「健康に暮らしつつげられる、まちをめざします」

多寄町は、国道40号がまちの中心部を貫き、国道沿いを中心に発展したまちです。

町内には、パウダースノーの雪質に恵まれた「日向スキー場」や町民が力をあわせて造成した「日本パークゴルフ協会公認パークゴルフ場」などがあります。また、肥沃な大地からの恵みを受けて育った美味しい野菜やお米が身近にあり、スポーツと食により健康の維持・増進が図られています。

町民は、「日向温泉」や「日向森林公園」を、世代を超えて人と人とのつながりを強めることができる地域の宝物として大切にしています。

昭和29年には約4,500人だった多寄町の人口も、現在は930人へと減少し、高齢化もあって、事業者の廃業に伴い、町民が買い物できる店舗が少なくなり、このまちで暮らし続けるための大きな課題となっています。

こうした課題を解決するため、既存店舗のさらなる活用と町民の協力による「買い物を支援する有償ボランティア」の実施をめざします。

③「誰もが安全・安心で暮らせる、まちをめざします」

多寄町は、天塩川をはじめ、タヨロマ川、新タヨロマ川、東陽沢川など9河川が流れる水資源に恵まれたまちです。

その一方では、近年発生する集中豪雨などの自然災害により、家屋の浸水や農地の冠水、河川の氾濫などの被害が発生しています。

こうした災害から人命を守るため、自治会を中心に地域関係団体（消防団、学校、JAなど）と連携した「自主防災組織」を設立します。

「自主防災組織」の主な活動としては、「防災訓練」や「救急救命講習会」など、防災活動に必要な知識や技術の習得に努めるとともに、「安全・安心な暮らしを守る意識」の啓発や「防災活動」への関心を高める情報提供を行い、こうした活動を通じて地域コミュニティが充実した、安全・安心なまちづくりをめざします。

④「農業と日向地区の宝物を活用し、活力ある、まちをめざします」

多寄町では、人口が年々減少し、商店街も廃業する商店などがみられるなかで、生活基盤やまちの活力の低下が懸念されます。

こうした現状に対応するため、若者が「住みたい」と感じる魅力的なまちづくりをめざして、雄大で肥沃な大地の恵みを最大限に活用し、安全・安心・クリーンな農畜産物をPRする必要があります。また、情に厚く、思いやりのある“町民”も財産であり、双方のPRを通じて、基幹産業である農業の発展をめざして、「新規就農者へ積極的に農業技術を提供」し、全国各地から移住者が訪れるまちづくりを促進します。

「日向森林公園」は、アウトドアが楽しめる場所としては珍しく、周囲には、山菜や野花、桜・カタクリの群集などが、春から秋にかけて周辺を色鮮やかに賑わせる、心和ませてくれる公園です。また、園内には、これまでの日向地域に関わる歴史や先人・縁者の方々の思いなどが謳われた百基余りの句碑が、歴史と共に佇んでいます。

園内のキャンプ場は、傾斜地のためテント設営が困難な場合もあり、バンガローの老朽化もあって、自然環境は整っていますが利用は低調です。

夏場利用されないスキー場のロッジを有効活用し、食材豊富なまちの利点を生かして「身体に優しい創作メニュー」を提供するなど、「日向温泉」との連携と一体化を考慮し、五感を高める多寄の町として、今後の地域活性化に取り組むことを検討します。

* 「温根別地区」 地区別計画

【対象自治会】 温根別第1、温根別第2、北温、温根別第6、温根別第7、白山

【目標】 温かいハートで、地域に根ざした、多世代、別け隔てのない元気で明るいまちづくりをめざします

(1) 温根別地区の概要・特徴

<特徴（歴史）>

- 明治30年 剣淵村の管轄下として開拓
- 明治38年 南線で水稲の作付けが始まる
- 大正10年 北線で水稲の作付けが始まる
- 昭和2年 温根別村として分村（世帯数542戸・人口3,303人）
- 昭和9年 北線ダム、仲線ダムの完成
- 昭和13年 雨竜ダムの建設着手
- 昭和29年 士別町、温根別村、多寄村、上士別村が合併し、士別市となる
- 昭和40年 温根別長生会（老人クラブ）の設立
- 昭和60年 トヨタ自動車士別試験場で冬季試験開始
- 平成4年 ダイハツ工業株式会社「北海道自動車試験場」で冬季試験開始
パークゴルフ愛好会が発足
- 平成5年 パークゴルフ場を造成
- 平成8年 温根別まちづくりの会が発足
- 平成10年 コスモスロードの取り組みを開始
- 平成22年 サケ稚魚放流事業の開始
- 平成22年 憩いの広場の設立（パークゴルフ場、ゲートボール場）
- 平成23年 自主防災組織の設立
- 平成26年 交友館が完成
- 平成27年 温根別中学校が閉校

<主な施設など>

コスモスロード・パークゴルフ場・温根別多目的研修集会施設（温根別保育園）・交友館・温根別小学校・旧温根別中学校・温根別生活改善センター（温根別出張所）・温根別フットパスコース・温根別農村広場・湖南牧場・温根別ダム・白山分館・北温分館・トヨタ自動車株式会社士別試験場・ダイハツ工業株式会社北海道自動車試験場

<産業>

農業・自動車企業の試験研究 など

<文化・郷土芸能>

温根別太鼓・ひふみ会光・もちつき大会・温根別神社祭 など

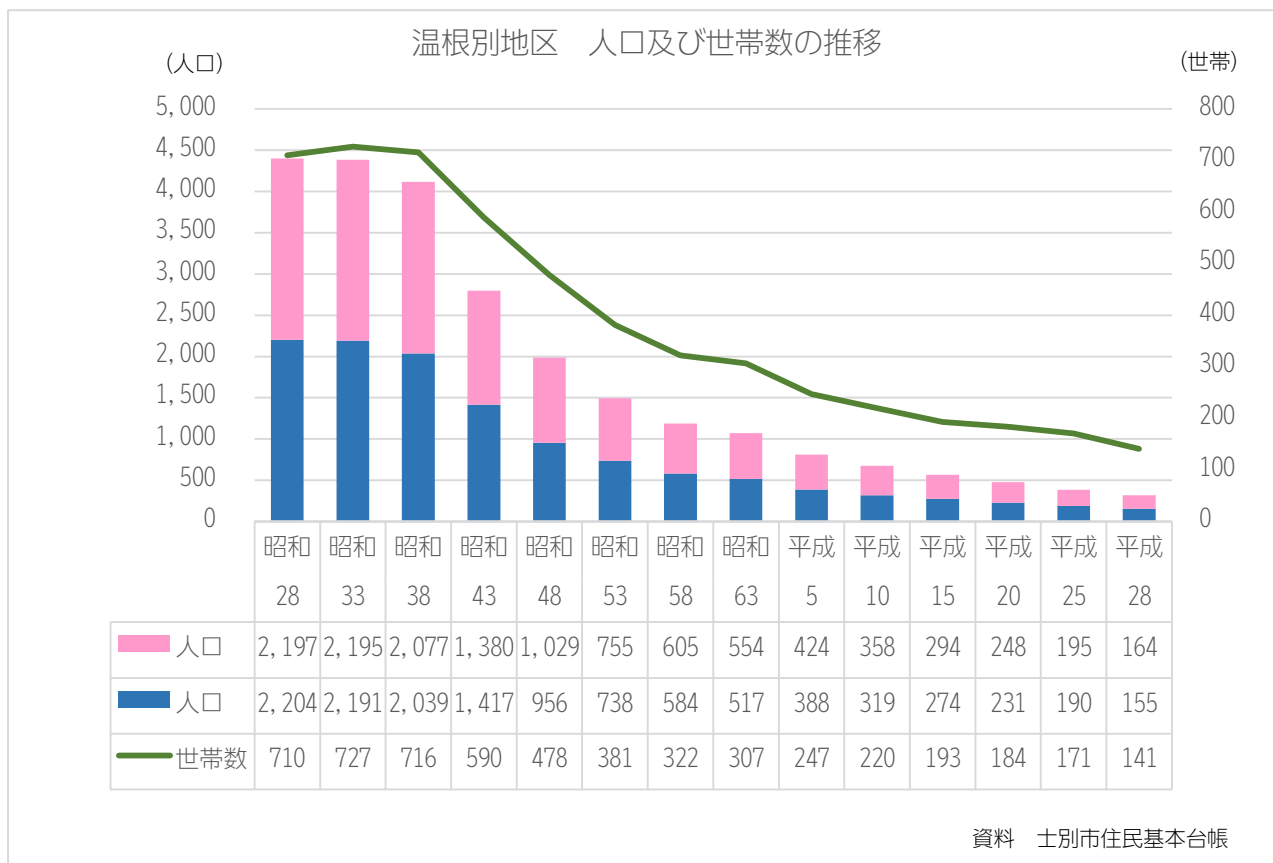
<行事>

温根別町民大運動会（パークゴルフ大会含む）・コスモスロード造成・花の写真集・文化祭・芸能発表会・温根別冬まつり・温根別神社祭 など

<交通>

路線バス（温根別南・仲線、温根別南線、温根別北線、スクール線）

(2) 地区の基礎データ



(3) 地区の宝物と現状・課題

<宝物>

冬まつり・文化祭・芸能発表・町民大運動会・温根別憩いの広場パークゴルフ場・温根別神社祭（子供神輿、子供相撲、ビールパーティー、パークゴルフ大会など）・コスモスロード・温根別交流センター（旧温中体育館）・卓球大会・公民館行事・温根別まちづくりの会・サケの放流事業・白山分館前庭に珍しい石・何事にも、陰ひなたなく行う人々・健康と人との輪が宝である・ヤマベの多くいる川 など

<現状と課題>

人口減少・農業後継者がいなく離農者の増加・高齢化の進展・高齢者対策・店舗などがなく不便になってきている・高齢化により、車の運転や除雪ができず、依頼もできない時・生活用品を含め購入する店舗がない・勤める会社がなく若者が入ってこない・防災体制・自主防災会の認識が薄い・3本の主流河川により地域が分断されているため連絡体制が取りにくい・川が多く大雨時の避難場所・空き家の除雪対策・イベントを継続していくための人材が心配 など

(4) 地域づくりの取り組み

①「誰もが、健康で暮らせるまちづくりに向けて、地域交流・健康増進の施設を充実します」

高齢化が進むなか、誰もが元気で健康な暮らしを願っており、そのためには、身体を動かし自らの健康管理と、人との交流を図ることが必要です。

健康増進のために、屋外ではパークゴルフ、屋内では1年を通じて交流センターで、卓球やミニバレーなどの軽運動での健康づくりを行うなど、誰もが利用できる交流の拠点施設とします。さらに、交流センターの屋外のグラウンドも利用して、健康増進を図ります。

憩いの広場パークゴルフ場や交流センターは、将来にわたり地域の宝として利用するため、今後も地域で協力しながら芝刈りなどの維持管理を継続し、地域に住んでいる方が元気で過ごせる地区をめざします。

②「各自治会での防災体制の取り組みを強化し、一人も見逃さないネットワークづくりをめざします」

温根別地区は、30本を超える河川・沢川があり、主流の大きな河川改修は進みましたが、近年の気象状況が変わり、家屋の浸水、農地冠水、道路冠水など被害が絶えません。

また、豪雪地帯でもあり、高齢化に伴い除雪作業に苦勞する世帯が増えています。

平成23年に自主防災組織を設立し、緊急時の取り組みを進めていますが、今後は大雨や大雪に備え、事前に地域で連携し役割分担を確認するなど、さらに防災意識を高め組織強化を進めます。

また、各戸に避難場所や避難時に必要な防災グッズの確認など、チラシなどで情報提供を行いながら、地域が地域を守るため一人も見逃さないネットワークづくりに取り組みます。

③「現在の地域の特色を生かしたイベントを継続して実施し、活力あるまちをめざします」

これまで継続して行っている「温根別冬まつり」、「コスモスロードの造成」など地域の特色を生かした事業・イベントは、地域の宝物であり地域全体で実施しています。

人口の減少、高齢化が進むなか、地域の活性化につなげるため、高齢者の経験豊かな知恵と若年層の発想の融合で今後も継続開催します。

イベントにより多くの町民が参加することで、情報交換や多世代の交流を深め、「人と人との和」を大切にした活力あるまちをめざします。

④「地域の方が安全・安心に集えるコミュニティづくりをめざします」

現在、温根別保育園や学童保育、温根別老人クラブで利用している温根別多目的研修集会施設は、老朽化が進み、改修にも多額の費用が予想されます。

また、地域には緊急時に安心して避難できる場所がなく、士別市内に移動を余儀なくされている現状にあります。

地域で安心して避難できる場所や高齢化が進むなかでの高齢者の憩いの場として、地域コミュニティの中心となる施設のあり方や、これにあわせて、安心して子どもを預け育むことができる保育機能を併設する、よりよい環境づくりに取り組みます。

* 地区別計画ワークショップ開催状況

地区別計画の策定にあたり、市民の皆さんが参加するワークショップを8地区で開催し、「こんな地域にしたい」「こういう地域が好き」といった想いを、地区別計画の「地域づくりの目標」や「地域の取り組み」に反映させました。



<中央南地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	平成29年5月24日 (水)	21人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別計画の概要について ・地区別ワークショップの進め方について ・地区の宝物や課題について意見交換
2	平成29年6月28日 (水)	17人	<ul style="list-style-type: none"> ・概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・地区の宝物と課題の確認 ・課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
3	平成29年7月12日 (水)	18人	<ul style="list-style-type: none"> ・概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・地区の宝物と課題の確認 ・地区の取り組み、地域づくりの目標について意見交換 ・地区別計画の確認

<中央北地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	平成29年6月13日 (火)	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別計画の概要について ・地区別ワークショップの進め方について ・地区の宝物や課題について意見交換
2	平成29年6月20日 (火)	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・地区の宝物と課題の確認 ・課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
3	平成29年6月27日 (火)	11人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の基礎データの確認 ・地区の取り組みについて確認 ・地域づくりの目標について意見交換 ・地区別計画の確認

<中央西地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	平成29年6月9日 (金)	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別計画の概要について ・地区別ワークショップの進め方について ・地区の宝物や課題について意見交換
2	平成29年6月23日 (金)	17人	<ul style="list-style-type: none"> ・概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・地区の宝物と課題の確認 ・課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
3	平成29年7月7日 (金)	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・地区の宝物と課題の確認 ・地区の取り組み、地域づくりの目標について意見交換 ・地区別計画の確認

<中央農村地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	平成29年2月13日 (月)	13人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別計画の概要について ・ 地区別ワークショップの進め方について ・ 地区の宝物や課題について意見交換
2	平成29年2月23日 (木)	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
3	平成29年3月7日 (火)	15人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・ 地区の宝物と課題の確認 ・ 課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換、確認 ・ 地域づくりの目標について意見交換、確認

<朝日地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	平成29年2月27日 (月)	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別計画の概要について ・ 地区別ワークショップの進め方について ・ 地区の宝物や課題について意見交換
2	平成29年3月13日 (月)	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・ 地区の宝物と課題の確認 ・ 課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
3	平成29年7月19日 (水)	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の特徴や歴史の確認 ・ 地区の宝物と課題の確認 ・ 地区の目標、地域づくりの取り組みについて意見交換

<上士別地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	平成29年2月27日 (月)	22人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別計画の概要について ・ 地区別ワークショップの進め方について ・ 地区の宝物や課題について意見交換
2	平成29年3月13日 (月)	22人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・ 地区の宝物と課題の確認 ・ 課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
3	平成29年3月30日 (木)	20人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換 ・ 地域づくりの目標について意見交換
4	平成29年4月26日 (水)	20人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換、確認 ・ 地域づくりの目標について意見交換、確認

<多寄地区>

回数	日 時	参加者	主な協議内容
1	平成29年1月16日 (月)	30人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別計画の概要について ・地区別ワークショップの進め方について
2	平成29年2月2日 (木)	25人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の概要について確認 ・地区の宝物や課題について意見交換
3	平成29年2月16日 (木)	24人	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
4	平成29年3月7日 (火)	24人	<ul style="list-style-type: none"> ・概要や特徴、地区の基礎データの確認 ・地区の宝物と課題の確認 ・課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換、確認 ・地域づくりの目標について意見交換、確認
5	平成29年4月11日 (火)	24人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別計画の確認 ・要望事項の確認

<温根別地区>

回数	日 時	参加者	主な協議内容
1	平成28年12月21日 (水)	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別計画の概要について ・地区別ワークショップの進め方について ・地区の宝物や課題について意見交換
2	平成29年2月14日 (火)	21人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の宝物や課題の確認 ・地区の取り組みについて意見交換
3	平成29年3月23日 (木)	20人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の取り組みについて意見交換
4	平成29年4月22日 (土)	15人	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のため、地区の取り組みについて意見交換
5	平成29年5月11日 (木)	18人	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別計画、地域づくりの目標についての確認

士別市まちづくり総合計画
地区別計画
2018年度～2025年度

- 発行 平成 30(2018)年 3月
- 編集 士別市総務部総合企画室企画課